

## 8. 令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立八王子北高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)
- (2) 事務局の構成 主任教諭(教務主任兼務)＝事務局長、教務部員1名 計2名
- (3) 校内委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、学年主任 計7名
- (4) 協議委員の構成  
学識経験者、PTA会長、同窓会代表、私立教育機関代表者、地域経済界代表者、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長 計8名

### 2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他  
第1回 令和2年7月7日(火) 内部委員7名、協議委員8名  
協議委員委嘱、委員紹介、学校経営計画、本校の現状と課題の説明、意見交換、事務連絡  
第2回 令和2年11月27日(金) 内部委員7名 協議委員8名  
本校の現状と課題について、本年度の学校評価アンケートについて  
意見交換、事務連絡  
第3回 令和3年3月5日(金) 内部委員7名 協議委員8名  
本校の現状と課題について、本年度の学校評価アンケートの結果について  
意見交換、事務連絡  
※全日程書面にての開催
- (2) 評価委員会の開催日時  
第1回 令和2年7月7日(火) 評価委員3名  
本年度の新学校評価アンケートの進め方  
第2回 令和2年11月27日(金) 評価委員3名  
本年度の新学校評価アンケートの検討と実施について  
第3回 令和2年3月5日(金) 評価委員3名  
※全日程書面にての開催

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

#### (1) 学校評価の観点

- ・本校の経営計画に基づいた教育活動に対する生徒・教職員および保護者の理解度の把握
- ・生徒の学校に対する評価および自分自身の成長度合いを理解する。
- ・地域社会の評価から教育活動を対外的に把握するとともにその改善に取り組む。
- ・基本的な学力の向上を目標に、生徒の学習に対する意識や家庭での自主的な学習時間の実態把握

#### 握

#### (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- ・12月 全校生徒 567/585人
- ・12月 保護者 162/585人
- ・12月 教職員 32/37人
- ・1月 地域住民 92/92人

#### (3) 主な評価項目

- ・対生徒 … 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活について、
- ・対保護者 … 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)その他
- ・対教師 … 授業、生活指導、特別活動、進路指導、学校生活(対生徒・対教師)その他
- ・対地域 … 地域での学校の知名度・生活指導・部活動・開かれた学校づくり・本校の評価度

#### (4) 評価結果の概要(校長や学校全般への意見・提言内容)

16の質問項目中9項目で肯定評価が8割以上となった。挨拶やマナー、部活動、働き方改革、HP・PR活動、「わかる」授業は慢心することなくさらなる評価を目指す。肯定評価がやや低かった(概ね70%)項目、「生徒は、Good Try!に積極的に取り組んでいる。」については改善へ向け、工夫を積み重ねていく。次年度の教育活動に活用したい。

### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・今年度はアンケートクラウドを利用した学校評価アンケートを実施した。初めての方法ではあったが、担任団の働きかけで回収率を維持できた。アンケートにより学校運営に関して関心が深まり、家庭との協力体制づくりに取り組むきっかけ作りを保てた。
- ・地域対象アンケートから全般的に高評価得ることが出来た。今後も学校のPRを推進して行きたい。
- ・新型コロナウイルスの対策を徹底し、生徒の高校生活を充実させ、今後も高校生の力を活かした地域活動の中核となって協議会の活動をさらに広げていきたい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・生徒が「わかる」を実感でき、「考え方」を学び、自身の力を伸ばしていく授業を教員が意識し、授業内容を随時改善し、実践していく。
- ・学習指導における「自主的」な学習習慣確立が今後も課題であり、家庭学習習慣定着を図る取り組みを続ける必要がある。宿題や課題を定期的に出すなど工夫をする必要がある。
- ・学校からの情報発信として、「ホームページ」等の学校からの発信を維持する必要がある。
- ・進路指導に期待が高く、進路実現に直結する授業の充実が求められている。また就職希望者の就職率100%を維持する必要がある。
- ・自己実現に直結する学力向上に取り組むつつ、生徒の自主・自立を育てていく生活指導を継続・発展し、コミュニケーション力・プレゼンテーション力等、社会人としての基本的能力向上の充実が必要である。
- ・小・中学校及び地域社会との連携が、学びの場を広げると共に地域に生きる学校としての自覚と責任が生徒の達成感、および活動成果による自己肯定感育成につながっており、積極的に地域活動を高校生活に取り入れる仕組みを確立する必要がある。また、地域へ学校の情報を発信し続ける必要がある。老人ホームなどへの訪問をさらに充実させる必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・期待させる学校像の実現を目指し、組織的な教育活動をさらに進める。

(2) 学習指導

- ・今後も少人数指導や習熟度指導を生かし、基礎基本を徹底し学力向上を図るとともに、大学進学等のより高度な授業展開により、進路実現を図っていく。
- ・「自主的」な学習習慣確立を指導し、家庭における学習時間を確保するための働きかけを学校全体として取り組んでいく。

(3) 特別活動

- ・生徒の主体的な活動を支援し、部活動をさらに活性化させる。

(4) 生活指導

- ・基本的な生活習慣・規範意識の徹底を図るために保護者との連携を密にし、指導を徹底させるとともに地域での規律、マナーの指導徹底を図る。

(5) 進路指導

- ・キャリア教育の一層の充実を図り、インターンシップ・上級学校訪問・授業体験をさらに機能させ、生徒の将来への展望を持たせる進路指導を継続する。その上で、日々の授業を大切にする姿勢を育てていく。

(6) 保健指導

- ・本年度もスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用により成果があり、高い評価を得ている。生徒・保護者の期待が大きく、今後も継続していく必要がある。
- ・ごみの分別指導を通して、生徒の意識が高まり生活習慣の向上につながっている。今後も指導の徹底を図っていききたい。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	やや、そう 思う	どちらとも言 えない	あまり、そう 思わない	そう思わ ない	わからない	無回答
5	1		1			1

7 職員会議および企画調整会議への協議委員の参加実績および成果

(実績) なし

(成果) なし

8 その他

次年度もこの結果を活用できる教育活動に取り組みたい。